

◆第81回定期全国大会決定事項に基づく申し入れ

【全国発信記事】九州関門地方支部 大分県に申し入れ

大分県へ、船員政策諸課題に関する申し入れ

1月29日、九州関門地方支部は、大分県に、第81回定期全国大会決定事項に基づく申し入れを行った。申し入れには藤田正道大分県議会議員（組合政治参与）にご同行いただき、大分県側は大分県企画振興部遠藤健人交通政策課長にご対応いただいた。

申し入れの概要

はじめに漢那太作九州関門地方支部長から、全国海友婦人会北九州ブロックと連名の要請文書を遠藤交通政策課長に手渡し、申し入れの趣旨と要請項目について説明し、わが国が抱えている海運・水産業界の政策諸課題の中で特に2点を強く要請した。

①船員後継者の確保・育成の推進

②カボタージュ規制堅持

カボタージュ規制の堅持については、JR九州高速船株式会社のクイーンビートル（パナマ船籍）の問題を具体的な例として取り上げ、国の秩序と安全保障の根幹に関わる問題であることを指摘した。

大分県側からはカボタージュ問題について、大分県の水際で、このような事例が発生しないよう特段配慮したい、との考えが示された。また、船員の後継者確保・育成について、大分県立海洋科学高等学校では、大分県と香川県が共同運航する実習船「翔洋丸」において、毎年、卒業生を海運・水産業界へ送り出している。本県も実習船「翔洋丸」を運航している立場上、船員後継者不足が課題となっていることを認識している。引き続き、担当課である教育人事課をはじめ、関係各所と連携を図り、船員後継者確保・育成に関わる諸課題を取り上げていく一などの考え方が示され、海運・船員の政策諸課題について幅広く意見交換を行い、理解を深めて申し入れを終了した。

「海員だより」